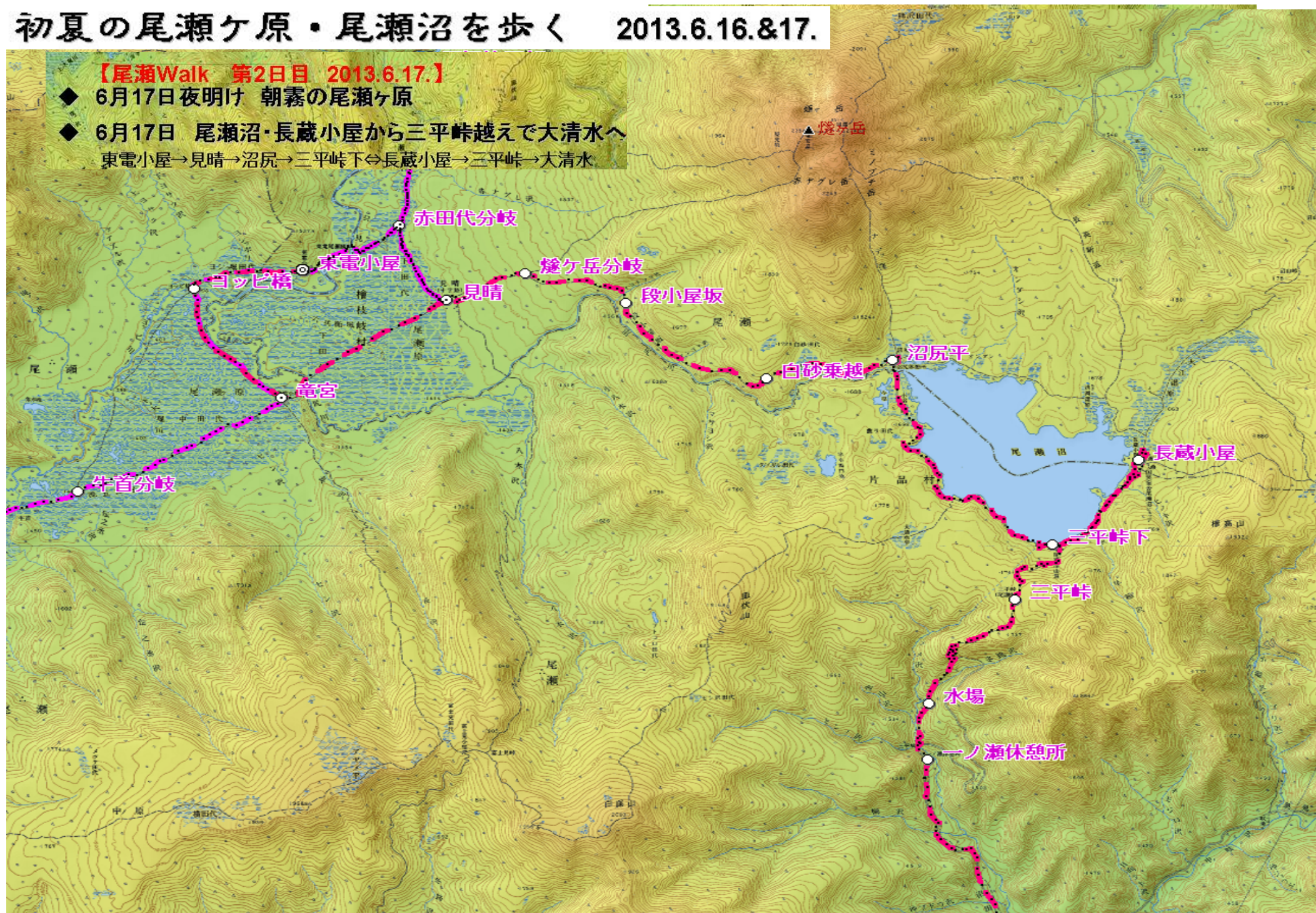


初夏の尾瀬ヶ原・尾瀬沼を歩く 2013.6.16.&17.

【尾瀬Walk 第2日目 2013.6.17.】

- ◆ 6月17日夜明け 朝霧の尾瀬ヶ原
- ◆ 6月17日 尾瀬沼・長蔵小屋から三平峠越えて大清水へ
東電小屋→見晴→沼尻→三平峠下⇄長蔵小屋→三平峠→大清水



初夏の尾瀬ヶ原・尾瀬沼を歩く 2013.6.16.&17.

6.17.夜明け 楽しみにしていた朝もやの尾瀬ヶ原の散策

朝モヤでかすむ尾瀬ヶ原の景色が見たくて、早朝 薄明かりがさすのを待ちかねて 尾瀬ヶ原の散策へ。散策から帰って、朝6時の朝食を済ませて出発することにした。

今日は神戸まで帰るので、時間的にはさほど余裕はないが、会津側へ降りなければ何とかなるだろうと。

【尾瀬Walk 第2日目 2013.6.17.】

6.17.朝 4:45 東電小屋の夜明け

今日も快晴 梅雨がうそのようなすばらしい快晴 燧ヶ岳の左肩の方から日が差し、尾瀬ヶ原には朝霧がたちこめ、日が差すと共に刻々とその表情を変えてゆきます。



6.17.朝 4:45 東電小屋の夜明け

今日も快晴 梅雨がうそのようなすばらしい快晴 燧ヶ岳の左肩の方から日が差し、
尾瀬ヶ原には朝霧がたちこめ、日が差すと共に刻々とその表情を変えてゆきます。



東電小屋の東ヨッピ川(只見川)沿いに広がる湿原にも朝霧が立ち込め、景鶴山を覆う雲も刻々と動いている
2013.6.17.早朝 東電小屋より









朝霧が随分薄くなってくると 湿原の表情がよく見えてくる 2013.6.17.
湿原の草の頭に夜露がついて白くなって 押し寄せてくる白い波のようになっている

霜がおりたのなら 原全体が白くなるのですが、 蜘蛛が草の間にかけた網に夜露がついて
それが白く光っているようだ。 早朝日が昇るまでの光景のようだ



ヨッピの川の川霧をも期待したのですが、川霧はありませんでした



湿原の草の頭を白くしているのは蜘蛛の網が原因か???

事実だとすると 人の入らぬ湿原には無数の蜘蛛がいるようだ





樹木の新芽にも水滴がいてこんな景色に





レンゲツツジの枝にこんな立派な網がかかっていました



夜露のついた湿原の草の葉にはこんなに沢山の水滴が……









5:45 尾瀬ヶ原の朝の景色 早朝の散策から戻って
朝日に小屋の影が湿原に映し出され、至仏山の頂上も見え出した
6時の朝食を済ませて 出発だ

初夏の尾瀬ヶ原・尾瀬沼を歩く 2013.6.16.&17.

【尾瀬Walk 第2日目 2013.6.17.】

尾瀬沼・長蔵小屋から 三平峠越で大清水へ帰る





6時30分 東電小屋出発 今日は尾瀬ヶ原から尾瀬沼 三平峠から大清水に下山して神戸に帰る

今日は 早朝の尾瀬ヶ原を散策しながら竜宮へ戻って そこから見晴→尾瀬沼へ出て、長蔵小屋から大清水へ下山する。
タイムリミットは大清水2時15分発上毛高原行のバスに乗ること。ひとつ前のバスにのれるかどうか・・・

一度 小屋に泊まって 夕方と朝の景色をゆったりと眺めたいとの希望が今回の東電小屋泊でかなえられて満足でした。
ツアーの人たちのコースから離れた東電小屋 シーズンとはいえ、落ち着いた静かな雰囲気だったのもラッキー。
朝食を終わって 6時30分小屋を出発。 なお、小屋の主人が須磨出身の方だったのにもびっくりした。



東電小屋の主人から、「朝モヤ見るのだったらヨツピ橋から竜宮へ尾瀬ヶ原の中央部横断が一番
また、尾瀬ヶ原では水芭蕉の時期はもう過ぎているが、尾瀬沼は今がいい」と教えてもらって、
へ出て直接見晴へは行かず、早朝の尾瀬ヶ原を散策しながら 西へ出て、ヨツピ橋から尾瀬ヶ原の中央を竜宮へ横切って
そこから見晴→尾瀬沼へ出て、長蔵小屋から大清水へ下山する。

東



ヨッピー川越しの至仏山にかかっていた雲もすっかり取れて 今日は素晴らしい快晴だ 20013.6.17.



ヨッピー吊り橋を渡って尾瀬ヶ原に出ると東の燃ヶ岳・西の至仏山共に雲ひとつなく聳えていました



尾瀬ヶ原 中田代の池塘に姿を映す至仏山 2013.6.17.



尾瀬ヶ原 中田代の池塘に姿を映す至仏山 2013.6.17.



ここにも蜘蛛が立派な網をかけていました



ヨッピ吊り橋→竜宮 尾瀬ヶ原中央の景色 2013.6.17.



6:50 まだ朝早くで 誰も歩いていない竜宮十字路で 2013.6.17.



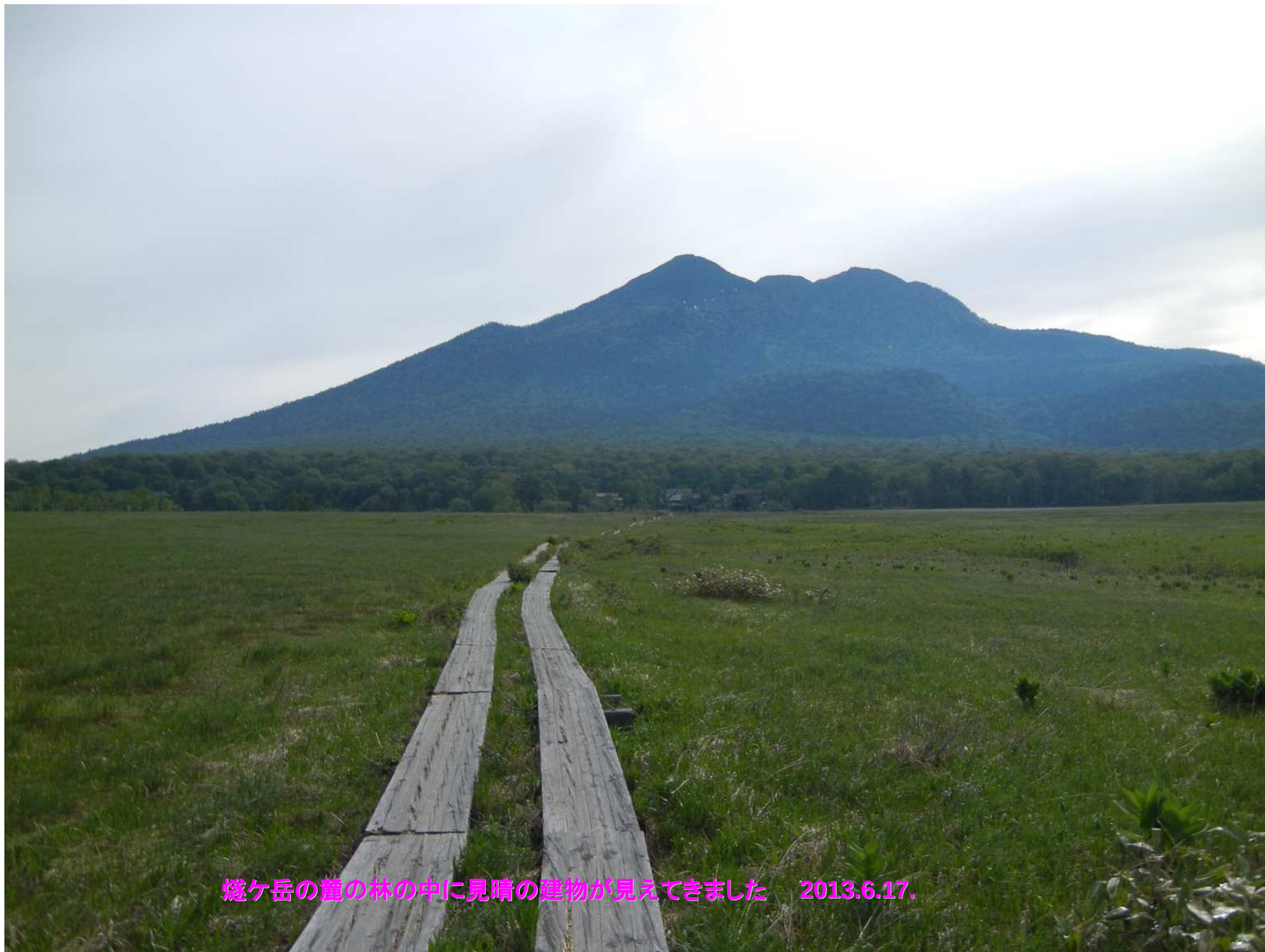
東の見晴へ向かうとすぐ。尾瀬沼から流れ下ってきた沼尻川が竜宮小屋のある森を流れる 20130.6.17.



逆光で燧ヶ岳が翳っているが、雲ひとつない快晴



2013.6.17.竜宮→見晴で



燧ヶ岳の麓の林の中に見晴の建物が見えてきました 2013.6.17.



昨日小屋の主人から尾瀬ヶ原の生物の話を聞き、気になっていた尾瀬池塘のナガバノモウセンゴケ



7:17 見晴に尾瀬沼にある長蔵小屋関連の第二長蔵小屋がありました 2013.6.17.



7:17 尾瀬ヶ原と尾瀬沼を結ぶメインコース
見晴から尾瀬沼・長蔵小屋へ
尾瀬沼から尾瀬ヶ原へ流れ出てくる沼尻川
その谷を遡って尾瀬沼へ

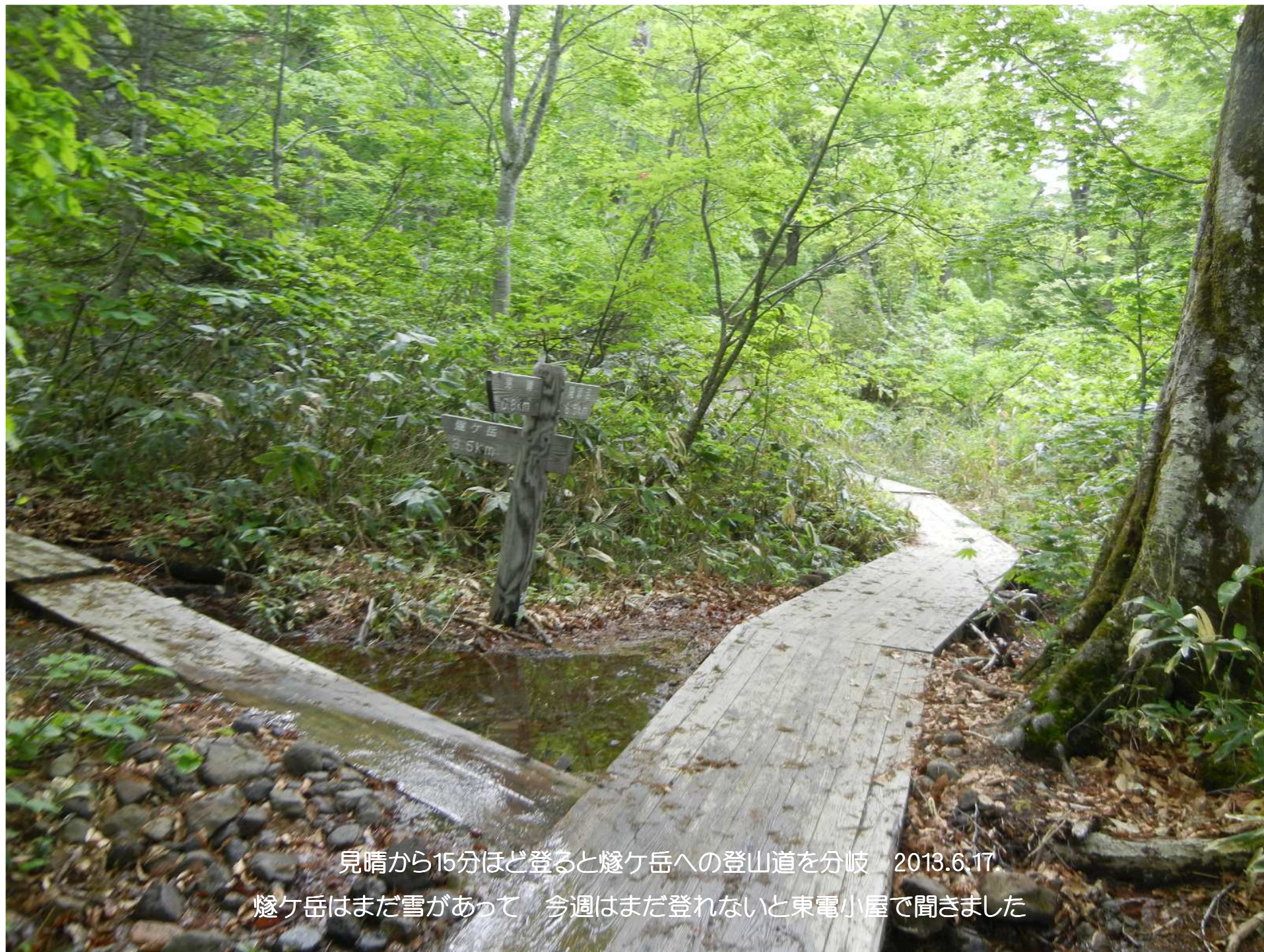


見晴からは 視界の開けぬ照葉樹林が美しい森の中
燧ヶ岳の山裾を登って 沼尻川が流れ下ってくる谷間 段小屋坂を上って、
白砂乗越から尾瀬沼の沼尻へ出る
きつくはないが、約2時間の登りが続く



見晴の燧ヶ岳・尾瀬沼への登り口 2013.6.17.
振り返ると樹木の間から下に見晴の小屋が見える

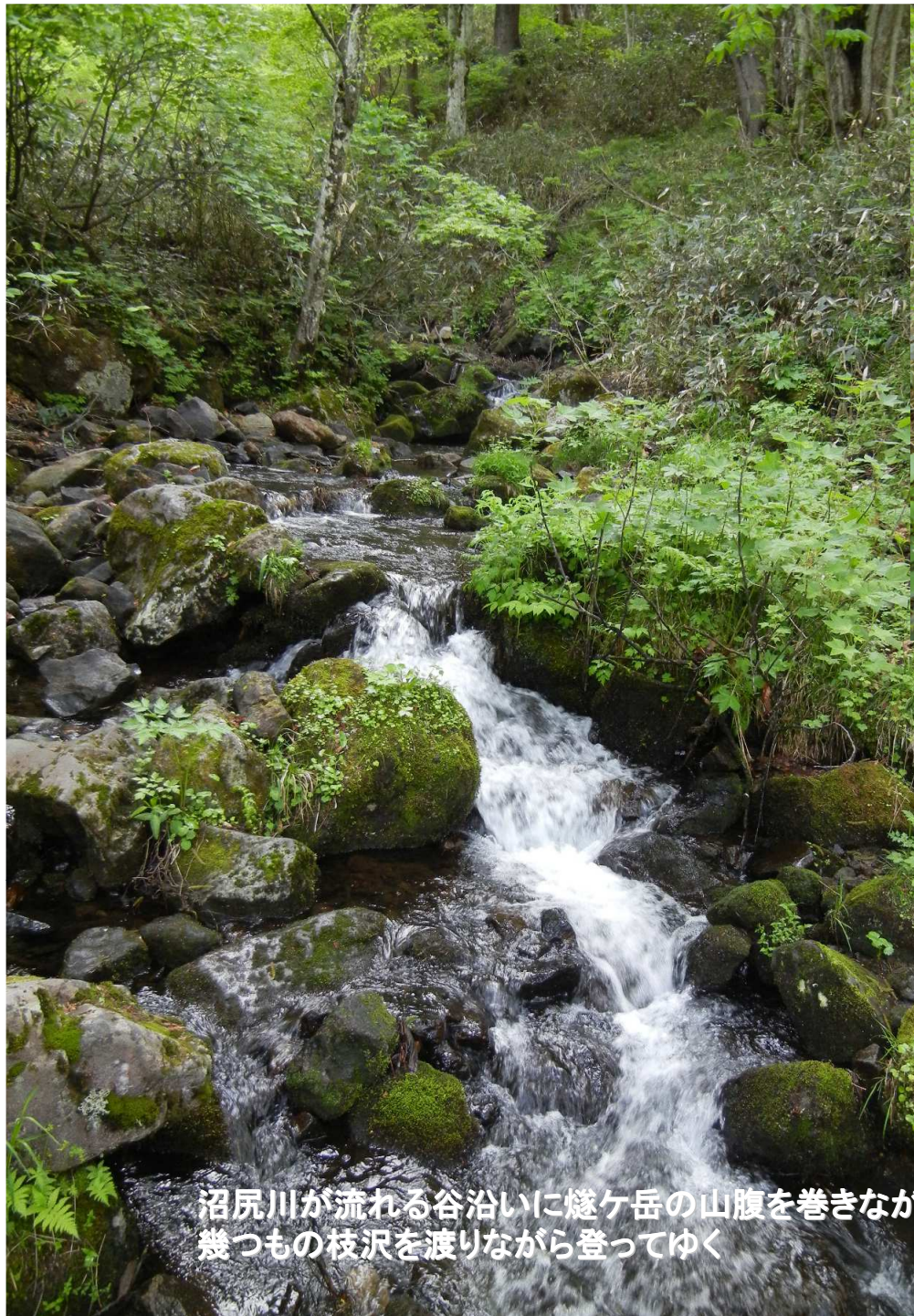




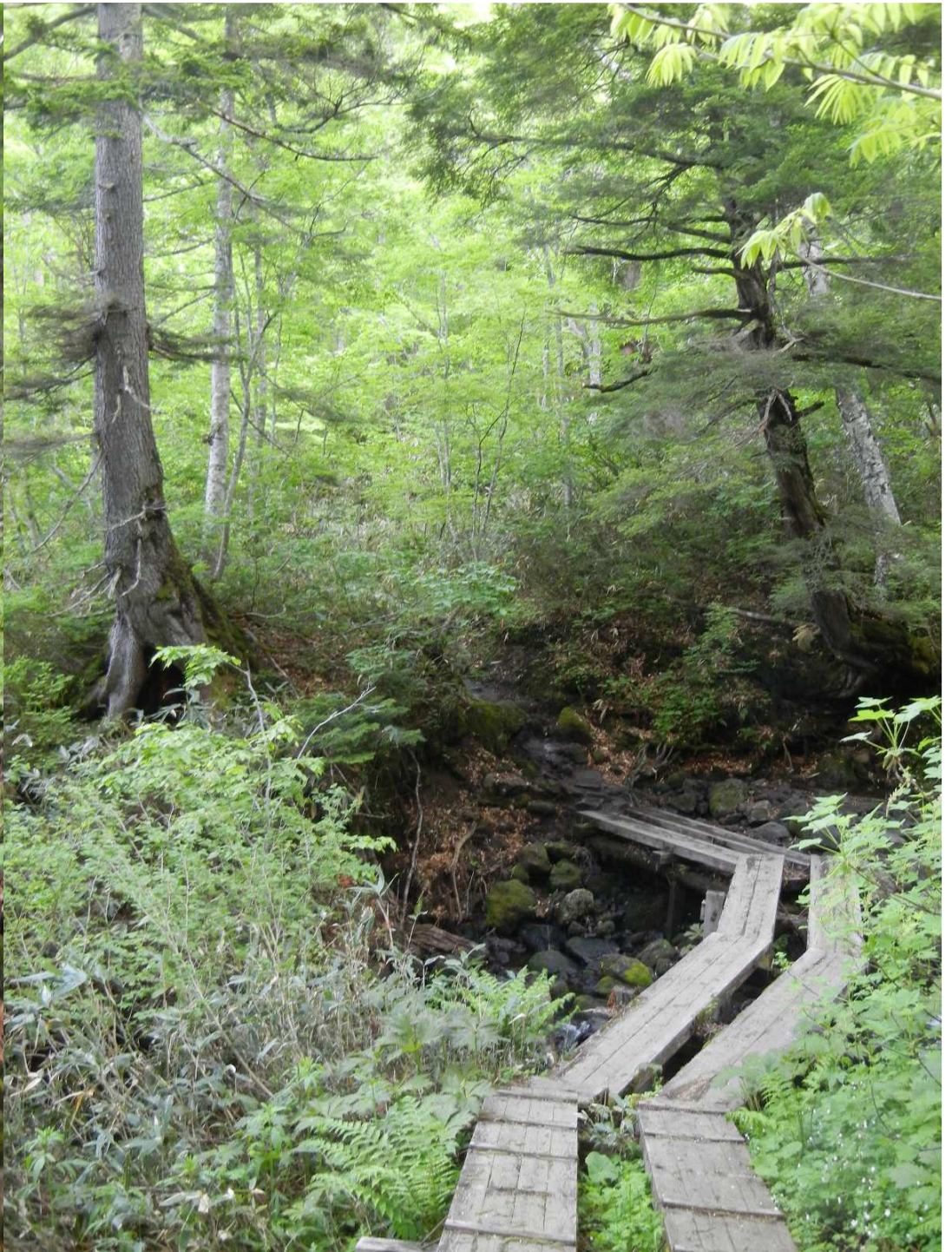
見晴から15分ほど登ると燧ヶ岳への登山道を分岐 2013.6.17.
燧ヶ岳はまだ雪があって、今週はまだ登れないと東電小屋で聞きました



視界の開けぬ長い段小屋坂の始まりであるが、
美しいブナやいろいろ花が咲いていて、気持ちの良い登りである



沼尻川が流れる谷沿いに燧ヶ岳の山腹を巻きながら登ってゆく道なので、
幾つもの枝沢を渡りながら登ってゆく





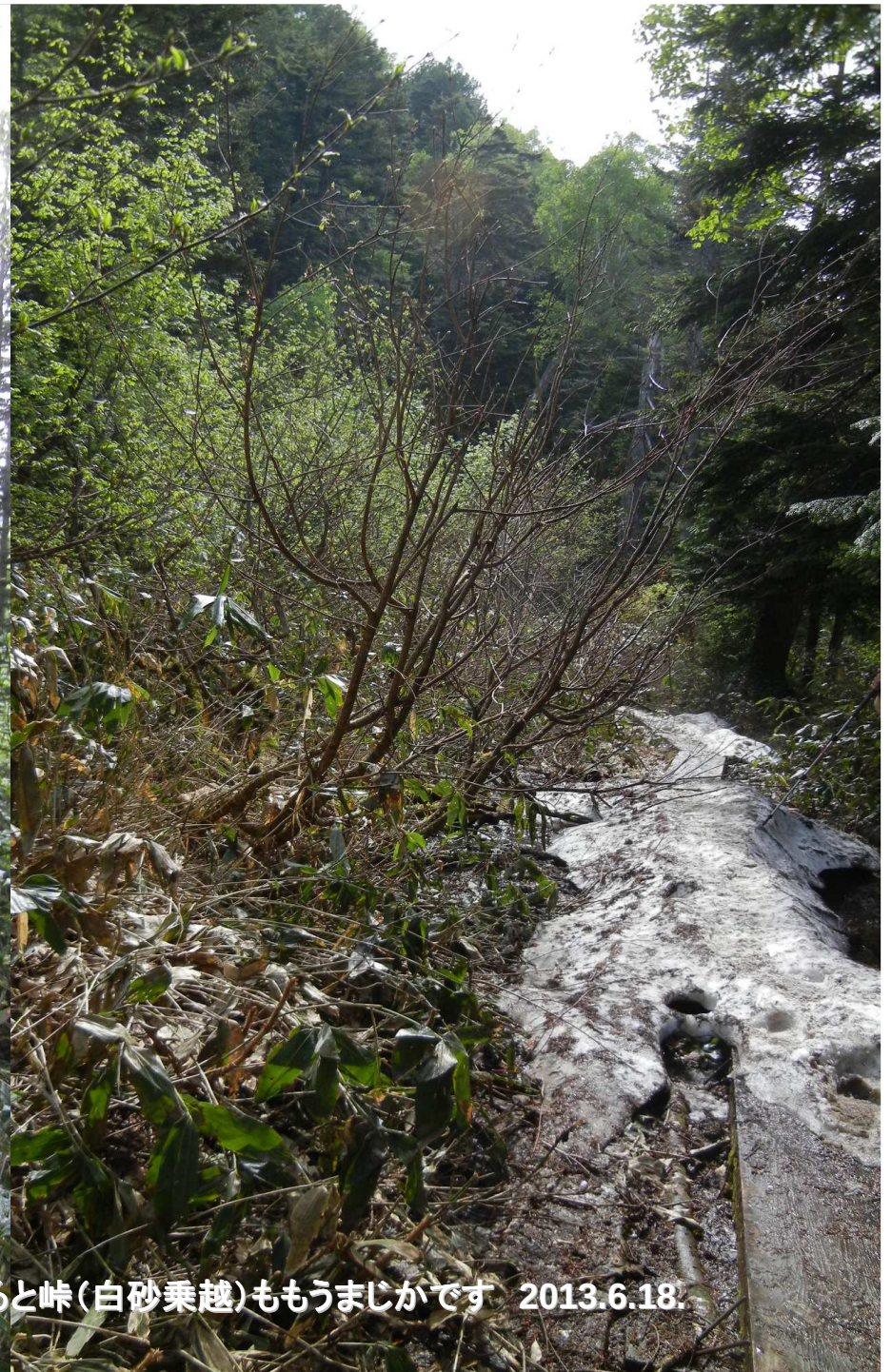












空が明るくなり、道がぬかるみ、木道に残雪がでてくると峠(白砂乗越)もうまじかです 2013.6.18.



谷筋全体が見えるようになり、沼尻川の流れが見えてきました





8:27 やっと白砂峠 この峠をくだると尾瀬沼 2013.6.17



残雪の残る白砂峠を越える 2013.6.17.



エンレイソウ



サンカヨウ



峠道脇の湿地には名前の知らない花が幾つも 2013.6.17.



8:36 急な峠道を降りると白砂田代 2013.6.17.



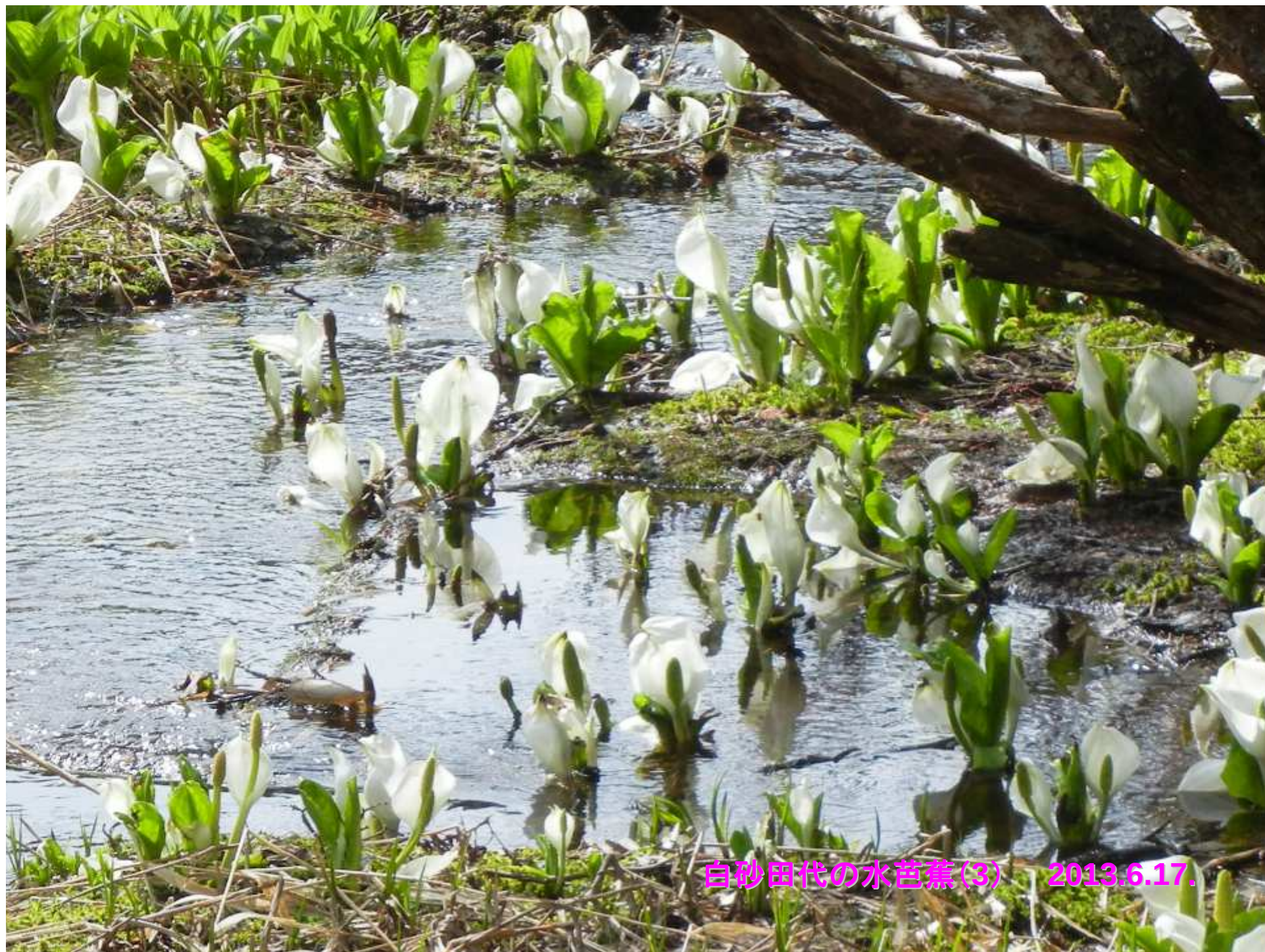
白砂田代の山際の湿地には水芭蕉がきれいに咲いていました 2013.6.17.



白砂田代の水芭蕉(1) 2013.6.17.



白砂田代の水芭蕉(2) 2013.6.17.



白砂田代の水芭蕉(3) 2013.6.17.



白砂田代の北側には燧ヶ岳の頂上が頭をのぞかせ、
取り囲む森の緑が水芭蕉以上に素晴らしい 2013.6.17. 白砂田代で



白砂田代で 2013.6.17.



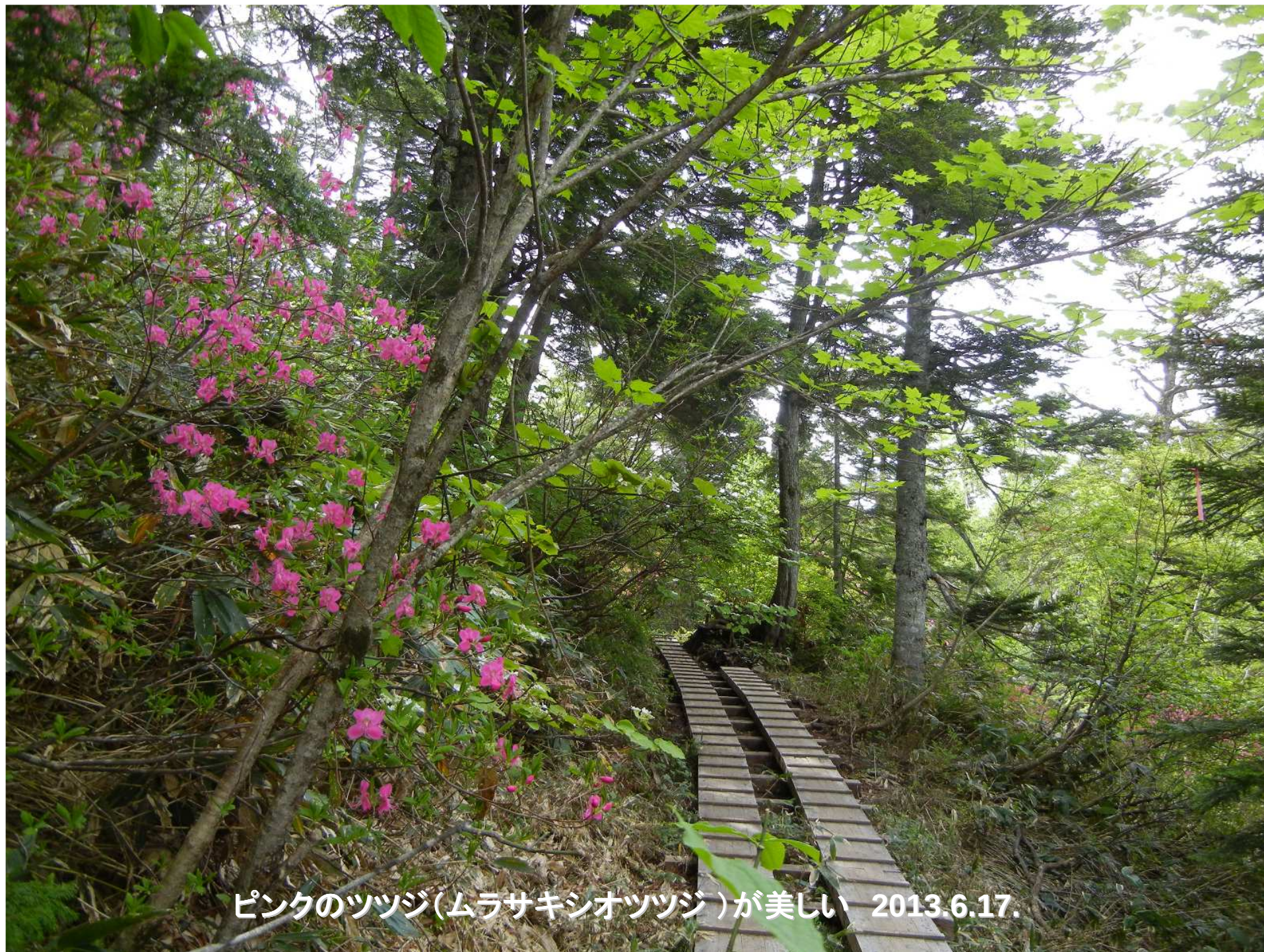
白砂田代で 2013.6.17.



白砂田代で 2013.6.17.



白砂田代を抜けると又森の中 この周辺、ピンクのツツジ(ムラサキシオツツジ)が美しい 2013.6.17.



ピンクのツツジ(ムラサキシオツツジ)が美しい 2013.6.17.



8:52 森を抜けるとぱっと視界が開け、尾瀬沼の北西岸 沼尻平 2013.6.17.

尾瀬沼 沼尻平 概略 (写真合成)



東側から眺めた沼尻平 左に尾瀬沼の岸にある休憩所 右の木道の先が白砂峠



正面南 尾瀬沼



東側



北側 燧ヶ岳



沼尻から眺める尾瀬沼 2013.6.17.



尾瀬沼 沼尻休憩所 2013.6.17.



沼尻から眺める燧ヶ岳登山道入口 2013.6.17.

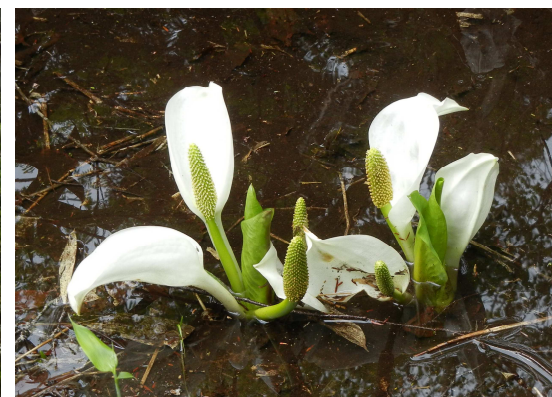
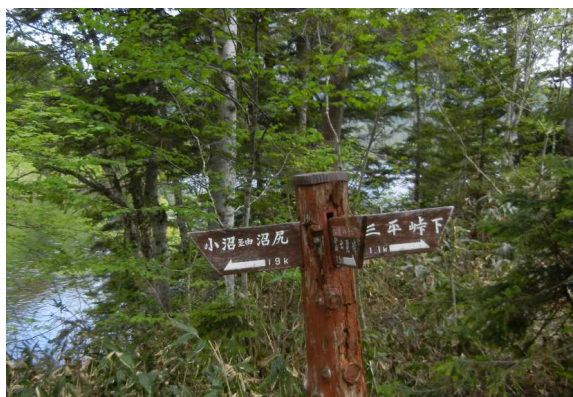
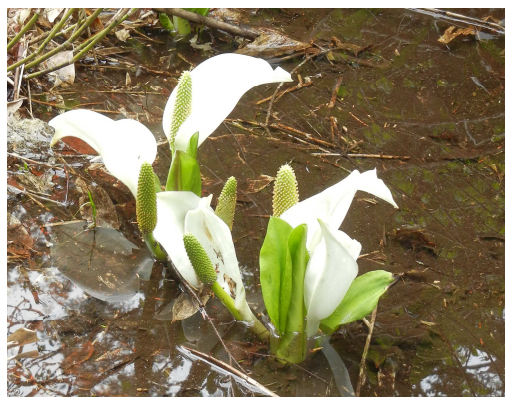
沼尻から対岸の大江湿原・長蔵小屋や三平峠へは東西どちらからも湖岸に沿って道がある。
今回は通ったことがない西側湖岸から長蔵小屋を目指した。





尾瀬沼西岸木道で 2013.6.17.





沼尻の対岸 富士見峠への分岐周辺から眺めた燧ヶ岳 2013.6.17.



三平峠下周辺から眺めた燃ヶ岳 2013.6.17.



9:53 三平峠下 2013.6.17.
ここから南へ登れば三平峠ですが、長蔵小屋を見たくて、
そのまま湖岸を西へ



長蔵小屋周辺で 2013.6.17.



10:07 長蔵小屋横の湖岸の湿原 ここも水芭蕉は盛りを過ぎていました 2013.6.17



長蔵小屋 2013.6.17.



長蔵小屋から眺める燧ヶ岳 2013.6.17.





10:25 三平峠下に戻って大清水へ 三平峠への木道を登って行く 2013/6/17



10:55 木道を何度か折れ曲がるとあっけないほどで三平峠 2013.6.17.
ここからは大清水まで 長いくだりが続く



尾瀬沼と大清水を結ぶ三平峠 2013.6.17.





木道と割り石を並べた場所とが交互に出てくるよう整備された道。こんな道が今回尾瀬では何回も遭遇した。非常によく整備されたものではあるが、歩きにくいことこの上ない。表面の高さがそろっていないので、登山靴でも水平に味が運ばず、非常に負担が大きい。特にくだりでは疲れることはなほだし。

一説には ハイヒールで登れないようにするためだとツアーの人が行っていましたが、昔からの山関係者だったらこんな整備はしないだろうと。

足をくじく、転ぶ本当に負担の大きい道整備だと思う。

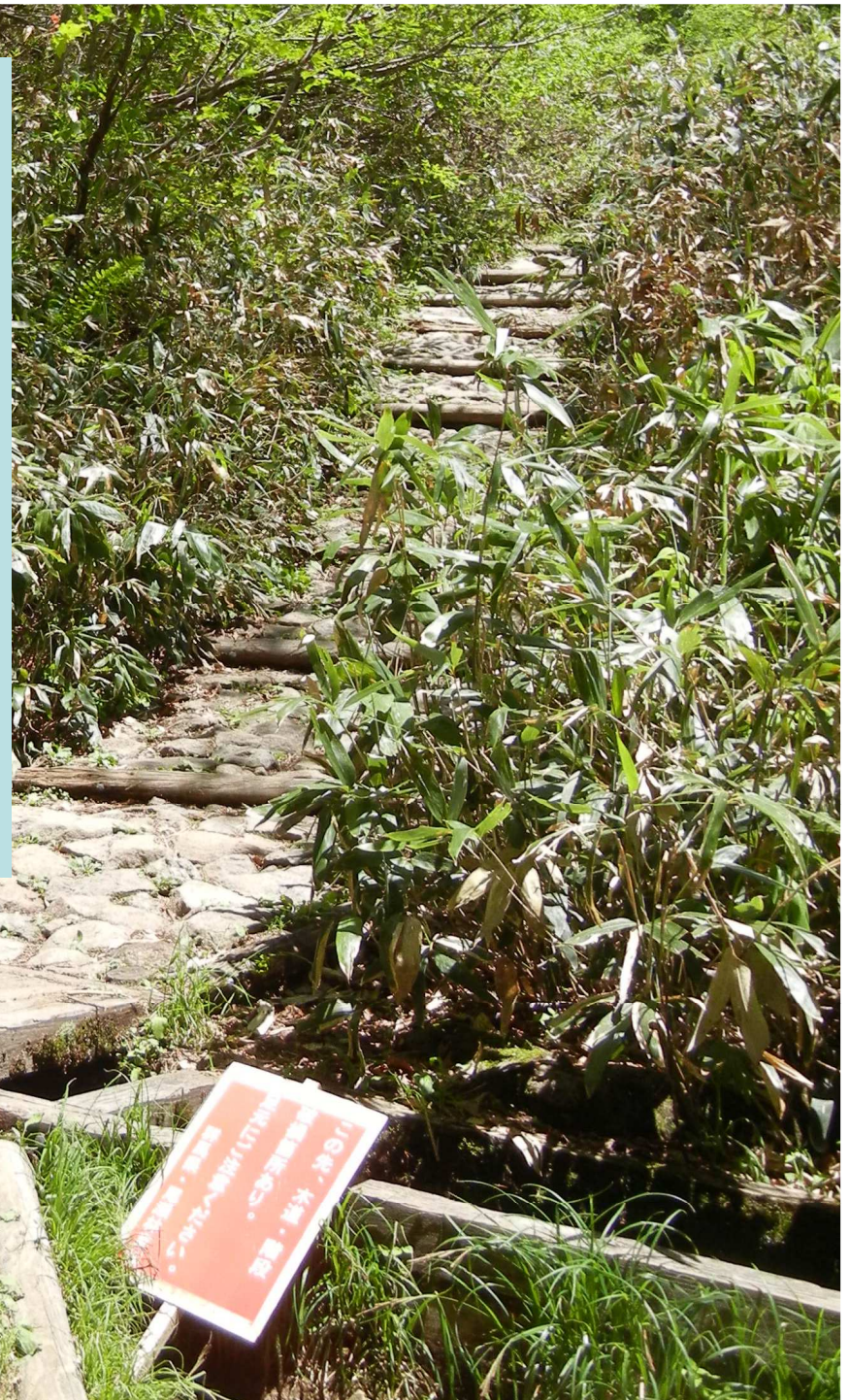
たしかに、最近山を走るやから 自転車で登るやからが多いこの頃、この尾瀬の道を自転車やランニングは無理。

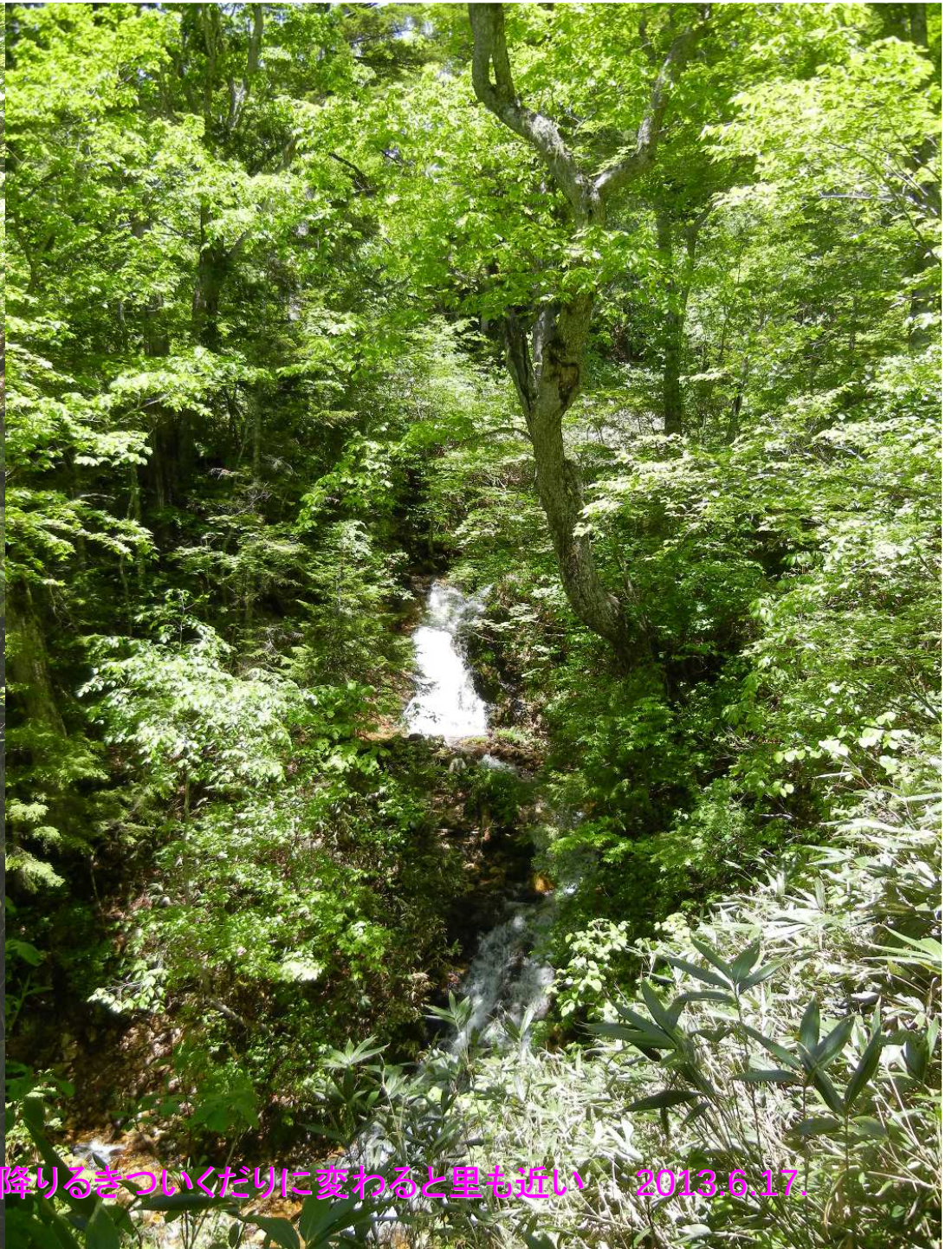
間違いなく足を痛めるだろう。

今回も 転倒で負傷した人 足を緋木津っている人を見たが、尾瀬は誰でも行けると気楽にかんがえると厳しい。

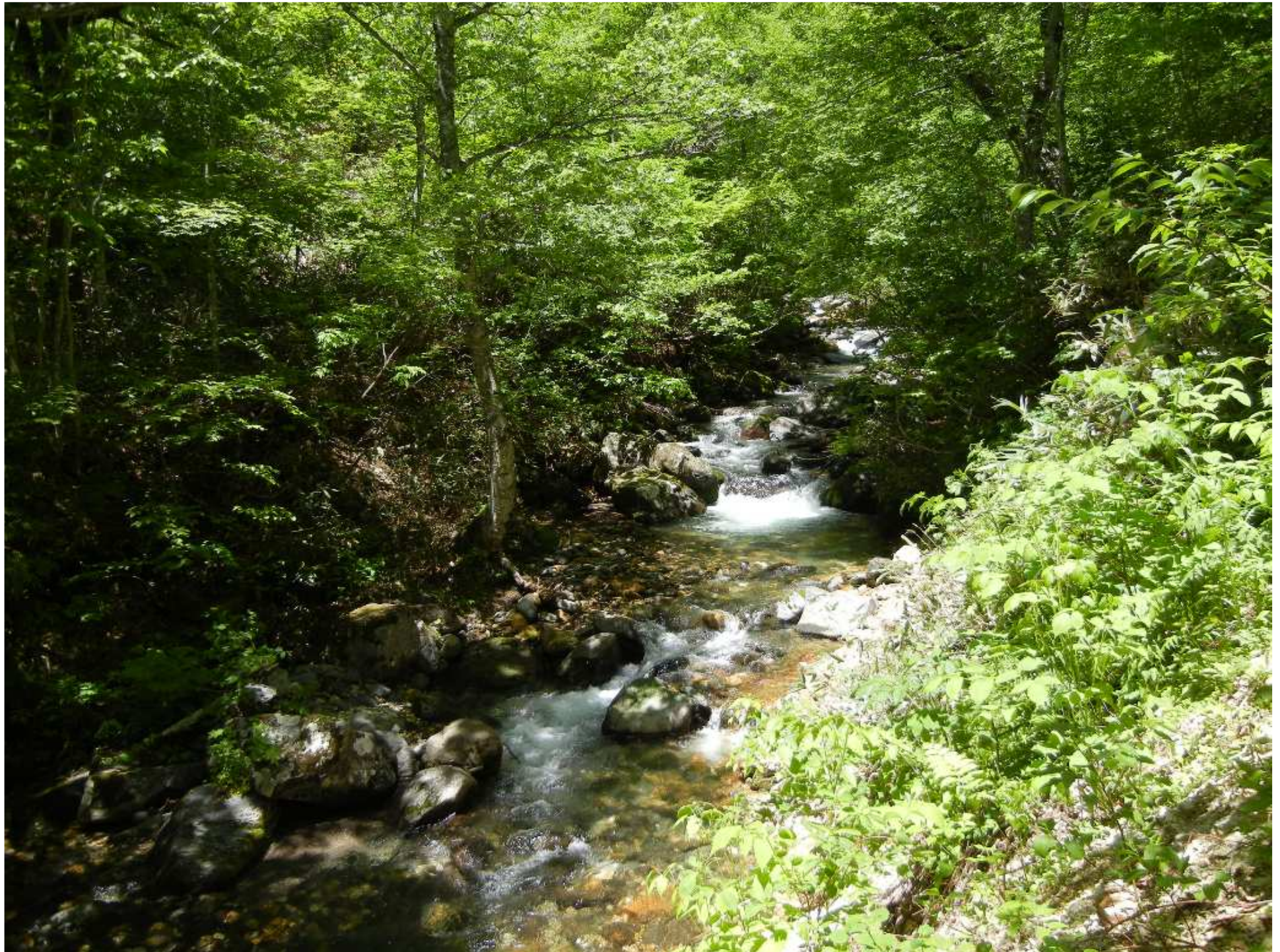
底の硬いトレッキングシューズをはかないツアー客が多い昨今 おそらく足の負傷は多いと思うのですが、そんなこと言っているのは私だけだろうか……

鳩待峠からの道もそうでしたが、とにかく この整備された敷石のごろごろ道はきつい。





山腹のトラバース道から谷筋へ降りるきついくだりになると里も近い 2013.6.17.







11:45 市ノ瀬休憩所に到着 ここからは延々約1時間の車道歩きが大清水まで続く







12:30 大清水到着

12時55分上毛高原行 一本早くバスに乗れる 急いで着替えをして 蕎麦を食べてバスを待つ



《 初夏の尾瀬ヶ原・尾瀬沼を歩く 》

6月16日 尾瀬ヶ原に水芭蕉を訪ねる

6月17日 尾瀬沼・長蔵小屋から三平峠越えで大清水へ

路線バスに乗って うつらうつらしながら 約2時間 上毛高原駅へ戸倉を過ぎると 乗客は新潟県魚沼からの尾瀬ガイド2名の3名 関西のツアー客を銀山湖から尾瀬へ案内して、新幹線で新潟へ帰るといふ。すごい時代になったと

何度も通った尾瀬。変化もしてきましたが、尾瀬の中に入るといつもながら心地いい。少し乾燥化が進み、植生も変化してきたようにもみえ、また、ツアー客の多さにも閉口しましたが、ツアー客がいなくなる午後には 静かな尾瀬の風景がそのまま。数年前の大出水で尾瀬も大被害を受けたと聞いていましたが、安心もし、楽しいWalkでした。